

■ 第40回日本創造学会研究大会 同時 第1回国際創造とイノベーション会議



徐 方啓 大会実行委員長 (近畿大学教授·日本創造学会会長)

デビット・メッセイ 副実行委員長(国際担当) (関西学院大学教授・本学会会員)

北門 達男 副実行委員長(国内担当) (近畿大学教授·本学会西日本支部長)

第40回を迎える日本創造学会研究大会は、第1回国際創造とイノベーション会議と同時に開催されます。第1回国際創造とイノベーション会議は、日本創造学会と近畿大学イノベーション研究所が共同主催する初の国際会議で、海外の創造性研究者が多数参加する予定です。

発表希望者は日本語と英語の発表どちらかを選択することができます。(※英語での発表は500語以内のAbstractの審査があります)例年の全国大会とは参加方法が異なりますので、記載された参加要項をよく御覧ください。世界の創造性分野の研究者との交流が持てる国際会議は、会員の皆様にとって貴重な機会となります。多くの皆様のご参加をお待ちしております。

会 期:2018年9月10日(月)~12日(水)

テ ー マ: 創造性とイノベーション—学際的研究と実践—

会場:大阪国際交流センター(大阪市天王寺区上本町8-2-6 Tel: 06-6773-8181)

主 催:日本創造学会、近畿大学経営イノベーション研究所

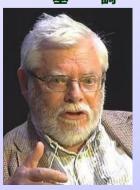
協 賛:アメリカ創造学会、アメリカ創造教育財団(CEF)、ドイツ創造学会、

ヨーロッパ創造とイノベーション協会、フランス創造性開発協会、 ポルトガル創造とイノベーション協会、南アフリカ創造財団、

バッファローニューヨーク州立大学国際創造性研究センター、

後 援:経営関連学会協議会、大阪観光局

野中郁次郎 一橋大学名誉教授



チュダウ・リカーズ マンチェスター大学名誉教授

講 anagemen sterreich

小田部正明 テンプル大学教授



ジェラード・プクショ NY州立大学教授

参加要項

発表申込: **2018月5月9日締切** ※参加のみを希望する場合は8月末まで受付ます

【日本語での発表・参加のみの場合】

例年通り日本創造学会事務局へ申込用紙をメールで送付

【英語での発表】

info@ICCIosaka2018.net へ申し込む。

※執筆要項などは、右記HPを参照。http://www.ICCIosaka2018.nrt

原稿提出: 【日本語での発表】

例年通り4ページを基準とする。

4 Pを超える場合 1 Pにつき ¥ 500を加算、最大 8 Pまで。

(申込書到着後、事務局より執筆要項を送付)

【英語での発表】

まずAbstract (500単語以下)を提出し、採択されたら

Full paper (10ページまで) を提出する。

原稿締切: 日本語、英語ともに7月31日まで

参加費: 【英語での発表者】

正会員¥30,000(早割¥25,000) 学生会員¥15,000(早割¥13,000)

【日本語の発表者と発表のない参加者】

会員一律¥12,000(早割¥10,000)

共著者の非会員が参加する場合、一人¥40,000(早割¥35,000)

※早割料金は7月9日までに参加費の振込みをされた方に適応されます。

懇親会費: 一人¥6,000(希望者)

宿泊施設: 大阪国際交流センターホテル(http://www.ihho.jp)、各自で予約。



大阪国際交流センター

交通アクセス

近鉄電車大阪上本町より徒歩約5分。

地下鉄谷町線谷町九丁目駅より徒歩約7分。

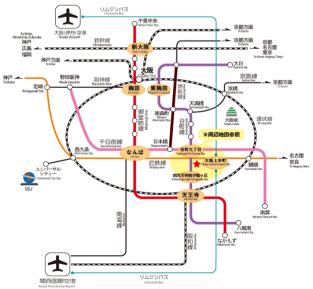
地下鉄谷町線四天王寺夕陽ヶ丘駅より徒歩約7分。

新大阪駅→大阪(梅田)→JR環状線鶴橋駅→近鉄上本町の場合、約32分。



大阪国際交流センターホテル





▲▼▲第53回クリエイティブサロン(2018年1月20日)開催報告▲▼▲

第1部講演会:「想 power 」

講師:アダム・フルフォード氏 (フルフォード・エンタープライズ 代表)



日本人のDNAとも言える「相手を想う心」は人類にとって大事な価値観。仙崖禅師の布袋の画には「お月様いくつ十三七つ」と歌っている二人の心が月に寄り添っている。歌という音も、音の下に心が付くと「意」になり、意味を持つ。さらに心偏が付くと「憶」となり記憶になる。文化・文明まで心が造るということで「一切唯心造」という言葉がある。理想的な「想い」は真相と真心からつくられる。周りの特性を最大限に活かすのが想powerだ。10年前から参加してきたユニバーサルキャンプin八丈島は衝撃的だ。障害者といわゆる健常者が一同に集まってテントで生活する。テーマは参加型社会づくり。目の不自由な人も飲んで酔っぱらう。彼がふらついてテントを探している場合、手伝うべきか、見守るべきか。その瞬間の判断、「一期一会」の判断だ。高齢化が進む地方でも、このような判断の練習が必要だと考えるようになった。その後、美の里づくりコンクールの審査員の機会を与えられ、人脈が広がった。そして、山形県飯豊町中津川地区という300人の集落活性化の依頼が来て、新企画を始めた。キーワードは「オープンマインド」。その場その場で話題を作る一期一会だ。

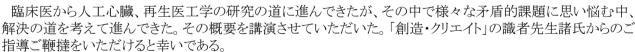
「遠慮のない」外国人と「相手を想う」日本人が参加するこの行動的なイベントを「NowHow」と呼んでいる(また、NowHowの第一歩として、人の心と体を調和させる「歩くこと」を活かす「Walkshop」を明治神宮で始めた)。

先生のように教えるとなると一方的になる。NowHowではむしろ参加者一人一人に異なる経験・専門性がある。 それにアクセスできる環境を作り、参加者を「仮村民」と呼び、大いに「よそ者提案」をさせている。私の役割は 彼らを反応させる「触媒」だ。集落の特徴をよく知っている年配の方々の知恵こそ伝承すべき世界遺産。将来 は国内外にある心の故郷が繋がることを目指している。 (記事:田村新吾)

第2部講演会: 「臓器再生への道」

講師:中村真人氏(富山大学生命工学科教授)





臓器不全の患者に対する最後の砦となる治療法が臓器移植であるが、臓器不足は世界で深刻化し、解決の糸口すらない現状がある。また、臓器は、誰かが死なねば得られない。患者を助ける一方で誰かの死や犠牲を願い望む矛盾的問題もある。筆者が臨床医から人工心臓の研究開発の道に進んだのは、これら移植医療の問題を克服するには、科学で臓器を作り出すしかないと考えたからである。医学と工学が融合する人工心臓の研究開発現場で活動する中で、「必要なものは作る」という考え方、手作業からCAD/CAM/CAE (Computer aided Designing, Manufacturing, Engineering)主体のデジタル時代への変化、そして、研究から実用への道の困難と課題を学んだ。現在、人工心臓は、臨床での切磋琢磨と患者治療の実践の時代に入っている。

その一方、機械式人工臓器の限界を克服するため、次に目指すべきは生きた人工臓器と考え、細胞培養を手習い、再生医工学の手技や課題を学んだ。そこでそれらの課題を克服すべく、世界に先駆け生きた細胞で立体物を作る3Dバイオプリンターを開発し、組織や臓器を作る新手法を提唱した。この研究はバイオプリンティングと呼ばれるようになったが、その本質は、『機械で臓器を作れるか?』という前例なき挑戦である。手作業での細胞培養主流の再生医療へ、機械の手、CAD/CAM/CAEのデジタル製作、Additive Manufacturing (付加的製造法)を導入した。世界的な3Dプリンターの大流行を追い風に、今や3Dプリンターで組織を作る手法が世界の主流となった。「機械で臓器を作る時代」の到来はもはや夢ではない。

さらに筆者らは、これらの経験を活かして、次の研究に着手した。「臓器再生」の新しい治療概念を創出し導入することで、世界の臓器不全治療がまた一段進歩すると確信する。 (記事:中村真人)

第54回クリエイティブサロン開催のお知らせ

研究会担当理事 國藤進•豊田貞光

2018年3月のクリエイティブサロンは2部構成で、第1部は講演会、第2部は講演+ワークショップが行われます。 会員・非会員を問わず、どなたでも参加できる開かれた研究会となっています。各回の日程等詳細は学会HP でご案内しています。

開催日:2018年3月10日(土)13:00~17:00 会場:SSBD本部会議室



講演会講師: 吉村達彦氏

GD3コンサルティング代表 工学博士 日本創造学会会員



WS講師: 当麻哲哉氏

慶應義塾大学大学院システム デザイン・マネジメント研究科 教授、博士 日本創造学会会員

「発見力」~価値創造に熱狂する組織を作る~

科学では、理論で仮説をたてる「書斎科学」と、それ 「製品の開発・製造に関わる全ての人々が、製品の問 題を発見し、お客さまのための価値に変換すること(価 値創造)に熱狂する組織を作るには・・」という視点で、 今、私達が行なっている仕事をブレークスルーしたの が「未然防止」の考え方です。

「品質」というと「非・創造的」仕事、創造性を発揮しよ うとしている人々の敵のように思われていますが、それ では、創造的なアイディアも実現しませんし、会社の大 部分の人は創造的な仕事とは縁遠いところで仕事をす ることになります。

講演者はトヨタ自動車開発部門在籍時代から、このテ ーマと取り組み、GD3というConceptを開発しました。こ のConceptを使ったDRBFMという手法は世界中の自動 車関連製造業をはじめ多くの企業の設計者が使用して います。この背景にある考えを紹介させて頂きますので、 「全ての人達が、価値創造に熱狂する組織をつくるに は」という視点で、皆さまの御意見を頂ければ幸いです。

イノベーションを生む企業文化と人材育成 -3M社を事例として-

イノベーティブ・カンパニーとして高い評価を得ている スリーエム社は、1902年に設立された米国に本社を置く グローバル企業である。長年にわたって次々とイノベー ティブなヒット商品を世に送り出しているこの企業の新製 品開発現場に、約20年にわたり勤務していた講師が、 スリーエム社の企業文化と人材育成について語る。

その基本的なスタンスは、失敗を許容する組織風土 にあり、社員のひとりひとりが自主性をもって高い目標 に向かって挑戦できる文化が社内にできている。また、 多様性に富んだ人材と技術、多くの経験と知識が共有 できる仕組みがある。これらを組み合わせることで、イノ ベーティブなアイデアが生まれてくるのである。

失敗を恐れずポジティブに考える環境と、多様性のあ るチーム形成ができれば、イノベーティブなアイデア創 出につながることを、参加者の皆さんとともにワークショ ップ形式で体験いただく。講師がスリーエム退職後、慶 應SDMで行っているイノベーション教育「システム×デ ザイン思考」から、アイデア創出手法の一部を紹介する。

《スケジュール》

開場 12:45

13:00-14:15 第1部講演会 14:15-14:30 休憩・開場整備 14:30-17:00 第2部ワークショップ 17:20~ 別会場にて懇親会

会 場: スマートシニアビジネスクラブ会議室

(定員36名)※先着受付

所在地:東京都中央区京橋2-8-1

八重洲中央ビル8F

参加費: 会員/無料、非会員/参加費1000円

※懇親会(希望者)は4,000円程度の実費

※参加希望の方は、学会ホームページより、メール でお申し込み下さい。

[氏名/所属/会員or非会員/懇親会参加の有無]



JR「東京駅」八重洲南口 徒歩5分 東京メトロ銀座線「京橋駅」6番出口 徒歩1分

■■第39回研究大会発表賞受賞者■■

2018年1月20日に開催された学会賞委員会において、第39回研究大会発表賞の受賞者が決定致しました。研究大会発表賞は、研究大会ですぐれた発表を行った方に贈られます。表彰式は、第40回研究大会総会で行われる予定です。

【研究大会発表賞】

姜理惠氏 所属:北陸先端科学技術大学院大学

発表テーマ: かき氷店経営によるアクティブラーニングと参加学生のクリエイティビティ

相原正道氏 所属:大阪経済大学

発表テーマ: スポーツ・イノベーション ―スポGOMI大会―

【研究大会発表学生賞】

中村一浩氏 所属:慶應義塾大学大学院

発表テーマ: 対話を通じて暗黙知を表出化させる「ジェネレイティブ・インタビュー」の提案

第12回 国際会議KICSS(International Conference on Knowledge, Information and Creativity Support Systems)開催報告

本学会も共催の国際会議KICSS(International Conference on Knowledge, Information and Creativity Support Systems)の第12回が2017年11月9-11日、名古屋工業大学で開催され、正会員7名が参加・発表しました。

本国際会議は、創造性開発にむけた理論及び支援、知識情報に基づく創造性支援システムの開発、 創造性の認知や共創への応用についての研究など、幅広い領域・分野を対象にしています。今年は32 本のFull Paperが採択され(採択率33%)、各論文はIEEEデジタルライブラリにて公開される予定です。

今年度は大会委員長名古屋工業大学伊藤孝行教授、プログラム委員長は産業技術大学院大学松尾徳郎教授でした。日本創造学会からは、永井由佳里理事が招待講演、國藤進理事がサービス賞受賞、三浦元喜九州工業大学准教授が優秀論文賞を受賞しました。プログラム委員会の提案で國藤賞が提案され、創造性関係の新分野開拓者2件に与えられました。そのうちの1件は正会員の就実大学三枝省三教授とアイデアマラソン研究所樋口健夫博士との共著論文です。

今回は伊藤孝行教授の発案でOnce-in-a-lifetime Conference for Creativityのモットーのもと、大変楽しい国際会議になりました。レセプションやバンケットも周到に用意されました。特にバンケットのプロのバンド演奏や歌唱、学生賞中心の授賞式はおおいに盛り上がりました。

2018年度はタイのパタオで11月15-17日に開催されますので、創造学会の正会員・学生会員の方はふるって投稿され、参加されるのを期待します。 (記事:國藤進)



KICSS2017参加者の皆さん(最終日)



サービス賞の國藤進氏



優秀論文賞受賞の三浦元喜氏



招待講演者:永井由佳里理事





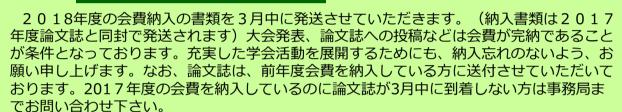
國藤賞の三枝省三氏と樋口健夫氏

◆◆◆新入会員紹介◆◆◆

入会者(入会順)

氏名	会員種	所属	住所	専門分野
辺 成祐	正会員	近畿大学	大阪府	生産管理論・技術経営論
脇田 健一	正会員	三菱電機エンジニアリング㈱	東京都	モーター工学・機会工学
西山 和重	正会員	㈱ISIDエンジニアリング	千葉県	エンジニアリング・特許
近藤 誠二	正会員	(株)ブレインワークス	東京都	電子工学·制御工学

2018年度の会費納入について



会費の振込は下記の口座にお願い致します。

日本創造学会年会費納入先口座

ゆうちょ銀行(金融機関コード9900) 店番019 店名 O19店(ゼロイチキュウ店)

当座 0126409 ニホンソウゾウガッカイ

■会員登録情報に変更がある方はお知らせ下さい■

年度がわりにともなう、住所・所属・連絡先・メールアドレス等の変更が ある方は、学会事務局まで変更をお知らせ下さい。

ニューズレターやクリエイティブサロン等のお知らせは、電子メールで配信されております。

登録アドレスは、皆様に有用な情報をお届けする窓口となっておりますので、よろしくお願い致します。



THE RESIDENCE OF THE PARTY OF T

事務局メッセージ

第40回研究大会は、第1回国際創造とイノベーション会議と同時開催となりました。

日本にいながら世界規模の国際会議に参加できるのは、研究者にとって大きなメリットといえます。この機会に、世界の創造性研究者とのネットワークを広げ、研究成果を発表してみませんか。(申込方法が例年とは異なりますので、ご注意ください。ご質問等は右記事務局まで。)

事務局:比嘉

日本創造学会 ニューズレター

2018年2月発行(№1) 日本創造学会事務局

発行人:田村新吾 編集担当:比嘉由佳里 〒272-0031 千葉県市川市平田

1-10-2

Tel 080-3465-6152 Fax 047-718-1747

e-mail: jcs-info@japancreativity.jp http://www.japancreativity.jp/